



解答と解説は22ページにあります。

新聞で  
読解力アップ!

Do  
チャレ

ワークシート

## クマ出没防止へ果樹伐採



### 耕作放棄で誘因に

南区で市民団体など企画

耕作が放棄されたサクラランボなどの果樹が札幌市街地にヒグマが出没する要因の一つとなっていることが、野生物の調査や研究をするNPO法人エンヴィジョン環境保全事務所（札幌）の分析で分かった。NPO法人と市民団体エコ・ネットワーク（札幌）は17日、クマの出没が多い南区藤野、簾舞両地区で放棄された果樹の伐採に乗り出した。（内山岳志）

（内山岳志）

NPO法人は札幌市から野生物の調査を委託されている。昨年の市内の出没状況を分析したところ、196件の2割に当たる44件は出没場所に果樹があった。「多くは放棄された果樹だった」としている。被害時期は実なる6月に集中していた。

（内山岳志）

早稲田宏一研究員は「果実の味を覚えたクマは人里に繰り返し出てくるようになる」と指摘。昨年8月に藤野地区的住宅街に出没を繰り返し、駆除された雌グマも過去に放棄された果樹の実を食べていたことが分かっている。

今回の果樹の伐採は市が仲介役となり、所有者の同意を得取り付けた。市民団体などが民有地で放棄された果樹を切り取り組みは市内で初めて。藤野、簾舞地区は果樹園が多く、栽培農家の高齢化などで放棄された果樹が残る地域。市によると、少なくとも1カ所約100本あるという。エコ・ネットワークが市民ボランティアを募り、果樹の

伐採と枝の処理を始めた。17日は市民団体などの会員5人で市民10人が加わり、クマの食害がある簾舞地区の放棄されたサクラランボ園で作業した。所有する男性の父親は農家で、サクラランボは30年ほど前に植えたという。これまでにクマの体毛が木に付着していたことがあり、男性は伐採を了承した。

参加者はチーンソーでサクラランボの木約50本を伐採した。参加した藤野地区的農家伊達寛記さん（51）は「予防策をとらなければ、また別のクマが現れる。市民にできる対策を学びたいと思った」と話していた。

エコ・ネットワークの小川巖代表さんは「市街地でのクマの侵入対策に向けた市民活動の呼び水になってほしい」と伐採への理解が広がることを期待する。

読解力は学力の基本です。記事を読んで、問題にチャレンジしましょう。

『北海道新聞』 2020年6月18日（木）朝刊（札幌版）

(1) ■について、次の①、②に答えなさい。

① 伐採されたのは、どのような果樹ですか。具体的に説明しなさい。

② ①で答えた果樹を伐採したのは、どのようなことが起こるのを防ぐためですか。簡単に説明しなさい。

(2) ■とありますが、果樹の耕作が放棄される理由として、記事中ではどのようなことが挙げられていますか。

電子版  
に動画  
アイラーニング

放棄されたサクラランボの木をチークソードで切る市民ボランティア